

（発行所）
 青山同窓会
 〒951 新潟市関屋下川原町2-635
 新潟県立新潟高等学校内
 TEL 025-266-5268
 FAX 025-266-5268
 （編集、発行人）
 上村光司
 （印刷所）
 オリオン印刷 ㈱
 〒950 新潟市南出来島1-19-1
 TEL 025-283-2151
 FAX 025-283-3804

ごあいさつ



青山同窓会会長

37回 鈴木正二

明けましておめでとうござ
 います。いよいよ母校創立百
 周年を迎える年となりました。

10月17日の記念式典等の記
 念行事及び記念事業の準備作
 業が大詰め段階を迎えてい
 ます。

各期幹事さんには記念寄付
 金の募金をはじめ、会員名簿
 作成のための資料作りなど大
 変お世話になっております。

今年と同窓会も例年7月に
 行われる総会を、百周年記念
 祝賀会と一緒に10月17日に行
 うことになっております。同
 窓の皆さんが多数お集まり下
 さり、母校百年を祝いながら、

旧交を温め、懇親を深めてい
 ただきたいと思っております。
 日頃の幹事さんのご苦労に
 感謝し、同窓各位のますます
 のご発展と、母校の発展をお
 祈りし、ご挨拶と致します。

青山同窓会 総会

恒例の総会は平成3年7月
 18日（木曜）に、いつも通り
 の会場、ホテル新潟で開催さ
 れました。いよいよ来年は百
 周年ということで、各期幹事
 の皆さんが張り切って呼びか
 けてくださり例年に増して多
 数の出席で盛況でした。

議事については決算、予算
 はさしたる問題もなく承認さ
 り、役員改選も百周年記念事
 業などを控えていることから、

留任ということで承認されま
 した。百周年については現在ま
 の事業計画の進行状況などが
 詳しく説明されました。引き
 続いての懇親会では、同期生
 ごとのテーブルで和やかな歓
 談が弾みました。全員着席と
 いうことでフロアー満員とな
 り、先輩にお酌に行くのも大
 変でした。

平成三年度 東京青山同窓会 総会

さる十一月二十一日（木）、
 平成三年度東京青山同窓会総
 会が、今回は会場を東洋経済
 ホールに移して行われました。
 出席者は斉藤伸雄会長以下1
 50名。新潟本部より上村光
 司副会長、滝沢強一学校長他
 2名が参加されました。また
 来賓として新潟市役所から遠
 藤亮収入役（62回）、広橋正
 博氏（74回）が出席されまし
 た。総会議事終了後の懇親会
 では最長老佐藤有男氏（33回）
 による乾杯、最多出席学年表
 彰（75回、18名）、最年少学
 年白永直子さん（99回）の挨拶、
 持水、高坂氏によるマジック、
 そして阿尻威吾幹事長代行率
 いる安田信託グループの民謡踊り
 などが、石塚英雄氏（75回）の
 軽快な司会進行にのって進められ、
 会はかつてない大盛況の内に幕を閉じ
 ました。野崎（94回）記



百周年について（五）

実行委員会 総務

59回 関根彰圓

同窓の皆様は格別なるご協
 力によりまして、母校創立百
 周年記念行事、事業の準備は
 順調に進んでおります。厚く
 御礼を申し上げます。本年度
 開かれた二回の記念事業実行
 委員会を経て、一歩進んだ成
 案ができましたが、それらを含
 めて現在までの進捗状況をご
 報告いたします。いよいよ創

立百周年行事および事業の当
 該年になりましたが、無事成
 功裡に幕が下ろせませう、
 皆様の格段のご協力をお願い
 申し上げます。
 一、式典・講演会・祝賀会
 平成4年10月17日（土）
 式典 於新潟市体育館
 13時～14時20分
 講演会 会場は式典に同じ。

14時30分～16時30分

講師 斎藤英四郎氏

(元経団連会長 第36回)

永井 梓氏 読売新聞

論説副委員長 第62回)

お二人から快諾を頂いてお

ります。特に斎藤氏につきま

しては、翌日豪州まで行かな

ければならない厳しいスケジュ

ールの中、お話しただくもので

す。

祝賀会 於ホテル新潟

17時～18時30分

会費 七千円

なお、祝賀会は、今年の青

山同窓会総会懇親会も兼ねる

予定。また同窓会総会は、祝

賀会前に、ホテル新潟の別室

にて開催します。(約30分)

※式典・祝賀会の参加者と

りまとめについては、次のよ

うに計画していますので各期

幹事の方よろしくお願いいた

します。

六月下旬―各期幹事会

七月下旬―各期幹事式典及

び祝賀会出席者報告。

参加者のとりまとめが少し

早いようですが、それは、そ

の後参加者名簿作成及び会場

配置等の準備作業に時間がか

かるためであり、ご了承下さ

い。

二、記念演奏会 生徒会文化

行事の一環として実施。

10月6日(火) 於県民会館。

NHK交響楽団による演

奏会の線で現在検討中。

三、同窓会名簿

(株)第一印刷(新潟市和合町

二丁目4-18、FAX28

3-3785)に委託。

購入希望部数が増えています

す(十二月現在約4800部)。

最新の同窓会名簿ですので

購入下さい。

名簿購入希望の方は、(株)第

一印刷が青山同窓会事務局に、

官製葉書かFAXで申込んで

ください。名簿の不明部分を

出来るだけ少なく、精度の高

い名簿を発行すべく、業者の

方では、葉書・電話で照会中

です。是非ご協力下さい。な

お広告掲載希望の方は、直接

(株)第一印刷へ。

四、記念誌「百年史」

正式な題字が決まり、「青

山百年史」となりました。

体裁 B5版、約900頁

本文(通史) 700頁

資料 200頁

頒布価格 3000円(10

月記念式典前に希望者に発送、

代金納入は発送時同封の振替

用紙にて)。現在、通史一次

原稿脱稿、係で読み合わせ中

で、鋭意内容充実をはかって

います。現在までの購入希望

冊数は、約1400部の多き

に達しています。今後の購入

申込は、募金申込葉書(3月

31日まで有効)、官製葉書、

FAX(025-26615

268)により、氏名、住所

卒業回数、購入希望冊数を明

記のうえ、同窓会事務局へ。

五、「青陵」特集号(回顧録

体裁A5版、300頁

内容一式典記録、生徒会誌、

回顧録の三部構成。

※回顧録の執筆をご依頼申

し上げましたが、ご多忙で未

だ原稿を頂いていない会員の

方は、二月中くらいに発送い

ただきたいと思えます。よろ

しくお願いいたします。

六、記念品(テレホンカード)

前号にて既報の通り、募金

された方に、礼状、決算書と

ともに、ささやかではありま

すが、表面フリーデザインに

よるテレホンカードを差し上

げたいと思っております。な

八、募金

平成3年十二月現在一

約3050万円。

募金期間 平成四年三月末

日まで延期。

同窓会分の日目標額(三千万

円)にほぼ達しましたが、各

期幹事および同窓の方々の温

かいご協力の賜物と深く感謝

いたしております。

ただ施設・設備のところ

前述べいたしましたように、ク

九、予算概要をお知らせしま

収入(募金)	3,800	単位: 万
支出	3,800	
差引	0	
《収入の部》		
同窓会	3,000	合通借制(91.12月現在で3,000)
PTA・職員	800	PTA:750 職員(合通借制):50
《支出の部》		
事業部	3,070	
募金	150	印刷費、郵送料、差込納付料等
施設	1,400	クラブ活動奨励基金、ピアノ
記念誌	1,000	印刷費、郵送料
記念品	370	テレホンカード作成費(6,000枚)等
青陵(回顧録)	150	印刷費、郵送料、生徒会予算の差引
同窓会名簿	0	第1印刷に委託
行事部	610	
式典	100	会場借料、印刷費、郵送料等
祝賀会	150	会場借料、招待者会費、事務費等
講演会	60	謝礼、交通費、宿泊費等(2名分)
演奏会	300	会場借料代、出演料等
総務部・事務局	50	会議費、事務費、印刷費、人件費等
予備費	70	

記念品テレホンカードの

デザイン公募要領

一、デザインは、カードの表

全面を利用するもので、マー

ク(シンボルマークを含む)、

タイトル、絵、写真など全く

自由です。大きさにも特に制

限はありませんが、縦・横の

長さの比が2対3の長方形で

あると作品全体が生かされま

す。

一、締切りは平成4年3月15

日とします。(本年10月22日

ラブ活動奨励金(利息)が出

来るだけ早く、それ相当の額

になることが望めます。未

だご寄付いただいていない方

は切にお願い申し上げます

と同時に、すでにご寄付いた

いた方でもさらにご協力いた

だくことも大歓迎です。よろ

しくお願いいたします。

す。

おめでとう

堀川 楊氏 (67回)

新潟日報文化賞受賞



全体から見ると、片隅でやっていることが認められ、本当にうれしい」と、控えめに答えておられます。

脳卒中などの脳血管障害や神経難病患者は退院後も体が不自由で継続的なアフタケアが必要で、在宅患者を病状によって分け1週間から2〜3

去る11月3日に表彰された第44回(平成3年度)新潟日報文化賞の社会部門の一つとして、「在宅医療を支えるケア・システムの構築」で社会福祉法人信楽園病院継続医療室長堀川 楊氏(67回)が受賞されました。

おめでとうございます。

堀川氏は新潟大学医学部を卒業、大学の神経内科から、昭和52年に、信楽園病院に勤務され、翌53年7月に地域医療部継続医療室を発足させ、以来14年間取り組んで来られました。

新潟日報のインタビューに答えて、「受賞はスタッフや地域の関係者、何よりも患者の家族の皆さんのおかげ。医療

▼昨年の新潟市が行った対岸諸国交流は目を見張るものがあった。新潟市とウラジオストクとの姉妹都市の縁組み、新潟空港からイルクーツクまでの空路開設、初の環日本海国際親善野球大会の開催(於新潟市)など新潟の日本海のグートウェイの地位をいやが上にも高める結果となり、旧ソ連領事館の新潟設置にも可能性が出て来た。

▼一昨年の秋、長谷川義明氏(61回卒)が新潟市長選に当選され市長になられた後、本会報編集部のインタビューに多忙な市長は快く応じて下さったことがあった。その中で、日本海沿岸および国際社会の中で、産業、技術、文化などの交流を通じて、新潟を国際的に誇りの持てる街として築いて行きたいとの抱負を披瀝されたのであった。

▼それよりも前、市長就任直後、ソ連沿岸地域の少年が大火傷を負い治療を依頼された時、市長は旧習を乗り越え人道の立場で受入れに尽力され、市民病院の手厚い治療および市民の暖かい応援により少年は無事帰国できたことは記憶

に新しい。市長の瑞々しい音頭とりのスタートだったと言えよう。

▼思いかえせば、新潟は明治新政府の外国と親の新外交方針により、函館、横浜、兵庫、長崎とともに日本最初の開港場に指定され、外国に向けての海運時代の曙を担ったのであった。また新潟は一九六五

年頭随想

外国との交流

校内幹事 69回 柝倉 浩

立国家共同体が主権を握り、ロシア共和国では価格の自由化に踏み切ったが、モスクワなどでの物価の異常高騰で物が満足に買えず、市民の中には「この冬を越せそうもない。」と深刻に危機感を訴える人がいるほど日常生活において大混乱を招いている。また日本では、不動産や株式など金融

年にアメリカテキサス州ガルベストンおよびソ連ハバロフスクと、また一九七九年には中国ハルビンとそれぞれ姉妹都市の提携を結んだ。しかし今、かつてない程の対岸諸国を中心とする交流の輪が広がり、さらに推進が期待されている。

▼作家大江健三郎氏と評論家立花隆氏との新春テレビ対談を視聴した。両氏とも、「いずれば人類は絶滅する」との点で意見が一致する中で、立花氏は「ソ連邦が消滅した後には、東西問題より南北問題が焦点となる。だいたい、世界の人口が約五十億といわれて、一つの種がそれ程地球上に生存しているのが異常である。特に南の方の国の人たちが餓死している現在、一人一人が多すぎる人間の一人として真剣に、グローバル的に考えて知恵を出し合い、対策を講ずることが急務である。」と指摘する。



▼どうやら、鎖国時代に根ざした閉鎖的な主義主張があるのなら、それを洗い直し、国レベルでも地域レベルでも外国と交流する中で共存共栄の道を探り、人類という生物の絶滅を出来るだけ先送りにすることが肝要なのではないかと思う。

追悼特集

塩崎巳太郎元校長先生ご逝去

元新潟高校の校長でおられた塩崎巳太郎先生は、新潟労災病院で病氣療養中でしたが昨年十一月八日夜、永眠されました。享年七十五才。

十一月十一日、ご葬儀は多勢の会葬者が見守る中、上越のご自宅でしめやかに行われました。



先生は昭和50年4月に、高柳前校長の後任として赴任され、県高校教育界をリードすると同時に母校の発展にも寄与されました。昭和51年秋には、先生の教育業績に対して、昭和51年度教育功労文部大臣表彰をお受けになりました。校内にあっては、多忙の身でありながらよく生徒に声をか

けておられ、生徒にも人気がありました。また先生がされ

関口先生を偲ぶ

(校内幹事柄倉浩)

61回生一同

葛飾北斎翁胸像、ゆかりの元浅草、誓教寺に建立。製作関口昌孝氏、事業主東京都台東区。落成披露平成三年四月十八日。——この意義深い、宿願の力作に高い評価を得られた先生は、喜び醒めやらぬ八月三日、まさに卒然と急逝された。豊かな構想力と感性



は、新しく変わりゆく社会に大きく寄与せられた筈であり残念この上ないが、然し芸術家の命である作品と心とは、永遠に我々と共にある。関口先生は心から人を愛し芸術を愛し、瑞々しい心で社会を直視されていた。素晴らしいご家族に恵まれた、立派な教育者であり、気概に充ち

るお話は、「簡にして要」、生徒にもわかりやすく好評でした。百周年には先生のお元気なお姿を拝見できると楽しみにしておりましたのに、それも叶わず残念なことであります。先生のご冥福を心よりお祈りいたします。

象表現を採られ、研ぎすまされたフォルムを生み出されたが、根底には浮世絵・刀剣等の、日本の伝統美への深い造詣が活きている。その浮世絵の論考は斯界の榮譽に輝いており、また能筆の先生は、柔らかい良寛への共感を強められていった。北斎像はまことに実像を表すような傑作であり、前年の英国に於けるハーン・小泉八雲の浮彫は、典雅な抽象造型の粹である。

イタリアの空と色彩と、そこに溢れた心からなる「教導を驚くべき炯眼と、情愛と寛容に溢れた心からなる」教導を

た芸術家であった。子弟への驚くべき炯眼と、情愛と寛容に溢れた心からなる「教導を

岩野先生最期の授業

70回 風間 稗利

卒業二十五周年同期会で、何か面白いことないかと、あの教室で「沢山先生の数学」

「岩野先生の国語」の授業を再現しようという話が進んだ。

当日、タクシーで西大畑のお宅へ。岩野先生、今や遅しと玄関に立っておられた。校長室で茶を飲まれ、いざ教室へ。階段で手を差し伸べる

と、「いいよ」とゆっくりと昇られた。教室は不惑の坂を超えた同期生で満席。

起立、礼！と、この日ばかり級長になって号令をかけた。

岩野先生、背をピンと伸ばし三十年前の現役時代にタイムスリップした。これには

いささか驚いた。黒板に植れたあの獨特の文字を書く。「〇〇君、読めるかな？ どういう意味か」と教壇から降り、卒業生のなかを歩く。会津八一先生の和歌を、岩野先生が毛筆で書いたものがテキストだ。「△△子、この歌を詠んだお寺はどこかね」と居眠りする暇がない。

講義は、会津先生との触れ合いを道して、新潟中学・新潟高校の歴史の一端を語る。所定時間はオーバー。「風間(延長しても)いいかね」、「はい」。三度ほど尋ねられた。結びは、新潟高校校歌の誕生の秘話を語る。

一番を板書すると、一番よいところはどこかと尋ねる。百里流れて信濃川

悠々海に入るところ 名さへ躍る青陵の 伝統遠き丘の上 古き誇りを新しく 集ふよわれ等若き日を 「それはね、『悠々』だ。コセコセしないでゆっくりする様だ。分かったかね。」と解された。校長に新潟高校としての新しい校歌を作るよう

にと命じられた先生にとつて忘れられない歌なのだろう。亡くなられる一年前のことだった。私の勤める県信連の窓口に姿をみせられた。

「いま、『私の青山30年』を郵便局へ出してきた。印刷しようが本にしようが君たちに一切まかせるから」と言われ、歴代つかえた校長を語られ、新潟高校の校長は風格がなければ新潟高校の器に合わないと言われていた。

「梅田校長のことを書いてもいいぞ」とも言われた。今になってみると、先生に一筆を願うべきだったと慚愧の念にかられる。遺影は70期の卒業アルバム

と称す。いま極楽浄土で、大好きな会津八一先生と俗界のことどもをかたり、極楽の話は尽きる期もないであろう。合掌

故岩野祐吉先生ご遺族 新潟高校創立百周年に 多額のご寄付

新潟高校で戦前、戦後を通じ三十年の長きにわたり、教鞭をとられた岩野祐吉先生が、昨年の六月に他界されました。先生は、在職中はずもとより、退職されてからも「私の青山三十年」という美しい装丁の素晴らしい冊子をお書きになり、母校に寄付されるなど、青山

と同じ写真だと思ふ。脇に筆字でこう書いてある。私の大好きな歌

時流はいかに濁るとも我が校風はいかに清し
新潟中学校校歌の一節である。

ひたすらに青山を愛し、「紫式部日記の基礎的研究」をはじめ「栄華物語」の王朝文学を研究、多くの論文を発表され学究肌の先生であった。岩野祐吉先生は西堀の光林寺に眠る。戒名は「釋 丹祐」と称す。

いまま極楽浄土で、大好きな会津八一先生と俗界のことどもをかたり、極楽の話は尽きる期もないであろう。合掌

ければ。」とのご寄付のお申し出が滝沢強一校長先生にありましたが、恐縮なことではありましたが、大変ありがたいお話でしたので、ご厚意をお受けしようということになり、百万円もの多額のご寄

片山 眞先生(66回)ご逝去

(校内幹事 柄倉 浩)

母校で化学を教えておられた片山眞先生が、四ヶ月余りの懸命の病氣療養のかいもなく、昨年八月二十九日早朝、県立ガンセンターで肝臓がんのため永眠されました。享年五十三才。法名釋教眞。八月三十一日のご葬儀は、教育関係者、学校職員、友人および教え子など多数の人が参列し、先生の早逝を悼み、ご遺徳を偲ぶ中、しめやかにとり行なわれました。また茶毘の前に、先生をお乗せした車は教育に心血を注がれた母校の校庭を一周しました。先生は校舎の佇まいや野辺送りに来ていた生徒の姿をしっかりと目にとどめ、母校を後にされたことでしょう。昨年三月末以来、体の不調

指導され、生徒を思いまた生徒に慕われるいわば熱血教師でおられました。今年はいよいよ片山先生が病床にても大変気になっておられた母校百周年です。こういう時こそ、豊富なアイデアと強いインパクトをお持ちの先生がいてくださったらなあとつくづく思います。先生に恥かしくないような百周年行事、事業が行なわれますように願っています。

をもらされていた先生は、四月九日の入学式に一年年の学年主任として無事つとめを終えられると「すぐ戻ってくるよ。」と微笑を浮かべながら入院されましたが、そのまま不帰の人になってしまいました。これから大いに活躍が期待されていただけに残念の極みであり、未だに学校にも深い悲しみが宿っています。片山眞先生への「お別れのことば」 87回 伊藤 聡 県立新潟高等学校の教え子として、謹んで片山眞先生の御霊にお別れのことばを申し上げます。片山先生、今、私達は、師と仰ぎ、また父として慕った先生を失い呆然自失としております。私達も、はや多くの者が結婚し、子どもができました。皆家族をひきつれて先生を囲んで杯を交わすことを楽しみにしてはいたのに、今となってはそれもかなわぬ夢となつてしまいました。私達のクラスは、男子生徒だけの、いわゆる「やもめ」クラスで、いたずら盛りの我々は、さまざま悪さをしてみました。プールへ向かう女子学生に窓から旗を振ったり、中間テスト終了打ち上げ、期



先生は十七年前に新潟高校通信制から全日制へ移られ、生徒には、ある時は厳しくまたある時はやさしく、熱心に

末テスト終了打ち上げなどと称しては、夜中に集まり、よからぬ会を開いたりしてしました。

また、荒くれぞろいの私達は、青陵祭での騎馬戦、土のう運びなどでは、向かうところ敵なしでありました。しかし、物理化学、日本史、世界史選択という、最も過酷な科目を選んだ私達は、よく学び、文化系のクラスよりも好成績を納め、子弟ともども、大いに溜飲を下げたのであります。

とにかくあの頃は、新潟高校へ行くのが楽しくて楽しくてたまりませんでした。受験があり、スポーツあり、喧嘩あり、恋愛があり、毎日が青春ドラマを演じているようでもったいなくてとも登校拒否などしていられませんでした。誰にも負けない、すばらしい高校生活でした。

それ何もかも先生のおかげでありました。先生は、それぞれの生徒の性格、家庭環境を細かく把握されているのにも拘わらず、ささいな事にはこだわらず、生徒を信頼され、暖かく御指導くださいました。

先生は、万事スマーとで、ダンディでいらっしやいました。旧態然としたバンカラに憧れる私達は、玲瓏の天や、美男男を、大音声で歌いましたが、先生は、百里流れて信濃川を得意とされていきました。また、絵画にも造詣が深くいらっしやいました。ヨーロッパ旅行のお話一同胸をときめかしたものでした。

片山先生、先生のおかげで、一生思い出に残る高校生活を送ることができました。

五十嵐君を偲ぶ

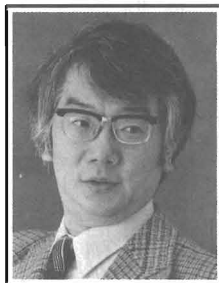
74回 森澤 盾 (旧姓石田)

本当にありがとうございませう。先生、どうぞそんな私達を見守りください。平成三年八月三十一日 昭和三十三年度三年七組代表 伊藤 聡 (一葬儀において伊藤さんが述べられた弔詞です)

七月の雨の降る日の午後だった。ポケットベルが何度も自宅の留守番電話にメッセージが入っている事を知らせた。公衆電話から聞いてみた。それは私の老母からのメッセージだった。「五十嵐君が刺されました。」次に「五十嵐君が殺されました。」というまさしくショックなものだった。夜帰宅しニュースを見ると、五十嵐筑波大助教授の死

は、まさにセンセーショナルな扱いで、しばらくは連日報道されることになるむごたらしい殺人事件になっていった。どうにも落ち着かなくなり日曜日通夜に行ってきた。報道関係者があちこちこちらでニュース種を捜していた。何とも言えずやり切れない夜だった。実は私と彼とは、幼稚園から高校まで一緒だった。知的能力においては月とスッポン

程の違いがあり、とても学友と呼べるものではないがそれでも彼と一緒に学べたのは思い出深い。昔を思い出す。幼稚園の時、彼の描く絵の中の人の顔は、輪郭に黒パステルを使うため肌色がいつも汚れた色になっていた。小学校の時、低学年の時から一日に五〜六時間は勉強するのが好きだと言っていた。中学三年の時、受験勉強なんかせず、彼は大学数学を染しそくに解いていた。そして卒業予餞会では当時のNHK



「ペンにはペンを！」追悼の記

新潟大学教養部講師

60回 上杉雅之

五十嵐 一氏が七月十二日筑波大学の同氏研究室前で不慮の死を遂げられてから、はや五ヶ月が過ぎた。私が新潟大学教養部に出講するようになった三年前から、研究する文化圏は違いますが共に英語を使

ヒット番組「夢で逢いましょう」のパロディを脚色、演出し、自分は坂本丸になり切っていた。ちなみに私は司会の中嶋弘子役をやらせられた。新潟高校に合格した時、彼は私に「石田もちゃんと勉強は、していたんだなあ」と言った。本当に懐かしい。社会人になって久し振りに会った。クラス会等にはまめに顔を出す人だった。すごいセンスのプレーザーを着た先生みたいな人になっていた。私が仕事の事で一寸悩んだ時、彼は「世の中、どんな世界でも、見ている人は見ているっていうことしかないよ」と言っていた。これが彼と会った最後だった。全く残念でならない。

思い起こせば十二年前にもなるうか。昭和五十四年十一月母校の体育館で「知の風景」と題する講演を後輩の諸君にしていたのだが、彼とのはじめの出会であった。なにしろ専門といえるものが多い「天才」講師。話題は、数学、美術、文学、哲学とかけめぐり、「知と生」のかかわり合いを説いた。とかく高次元になりやすい話題を、動乱火中のイランでの体験を含めて語りかけたが、約二時間にも及ぶ熱弁、さすがの新潟高校生も終始圧倒されっぱなしだったような印象がある。

以来、五十嵐氏は自分の学術書、翻訳書、エッセイなど数十冊に及ぶ労作を上梓される度に私に贈って下さること忘れなかった。河井継之助を扱った「摩擦に立つ文明」(中公新書)は幕末・明治維新の人と事件から「摩擦」に

『在京新中三五会秋の集い』

35回 尾崎 三夫

本年は、稀有の雨天続きの折柄、去る十月十九日に、開催の当日は幸にして雨も止みがぼつぼつ出て来て、当日は、左記九名参加。三十階の展望台から明治神宮の森を眺望。歓談二時間。来春は、新中創立百周年の記念すべき年であるから、新潟の行形亭で開きたいとの要望もあり、新潟在住の級友の配慮を希望して散会。



入沢健三、岡四四亥、尾崎三夫、熊倉雄三、近藤百之、籠島秀雄、丸山求蔵、山名栄一、渡辺秋策

記

以上

『司法修習生となつて』

94回 近藤 明彦

平成二年一月二日、法務省の掲示板に自分の名前を登録して、私の司法試験との闘いは終わった。合格の平均年齢二八歳を超える難関に二三次、挑戦三回目にして合格を果たしたのだから順調と言えれば順調すぎるゴールではあった。



私は、この司法試験に合格したことを誇りに思っているが、私が誇りに思うのは、日本一の難関と言われる試験に人より少しばかり早く合格できたからではない。私がこれから就こうとする弁護士という仕事、やりがいのある仕事であるところから信じ、合格を祝福してくれる多くの友人達に囲まれて合格を果たせたからこそ、誇りに思えるのである。逆に、そのような環境に恵まれたからこそ、私はこの試験に合格することが出来たのではないかとも思えるのである。

私は司法試験合格のために膨大な時間を費やした。試験

の直前には連日三時間程の睡眠で、飲みたくもない栄養剤を飲みながらひたすら机に向かった。そこまで私を駆り立てたのは、私は、人間として

夢に勇気を与えていく、そんな流れの中で自分の進むべき道を決定できたからこそ、今の自分がある、そんな気がするのである。

私は今、司法修習生となつて法律実務の修得に励んでいる身である。実際の生きた事件を扱ってみると、理論だけでは割り切れない難しい問題があることが分かる。そんな数々の問題に悩む中で、私の価値観も少しずつ変化していくことになるかも知れぬ。それでよいのだ。人間は、今まで積んで来た経験に新しい経験を積み重ね、その度に少しずつ変化し、進歩していくものなのだから。

司法試験のゴールに辿り着いて今また新しいスタート地点にいる。そんな身の引締まる思いが私を今包んでいる。

お礼のご挨拶

さる11月20日に発行致しました「故佐藤 隆氏追悼特集号」は、鈴木会長さん始め幹部のご高配により、同窓会報としては初の単独発行させて頂くことができましたことに、厚くお礼申し上げます。

早速、特集号を故人の霊前に捧げ、世話人一同、念仏称名致しました。発行に当たりご寄稿くださった方々、発行費を拠出してくださった同学生諸氏(成田、小沢、永井、山崎、沢田、丹羽、奥山、阿部(次))に感謝申し上げます。ご遺族からは呉々もよろしく申しておられました。以上簡単ですが、紙上を借り一言お礼のご挨拶と致します。

(52回筑波竜二)

青山ゴルフ会

青山同窓会鈴木杯ゴルフコンペは9月26日紫雲ゴルフ倶楽部で開催され、優勝は堀一(75回)君でした。次回1992年春のコンペは、新装オープンされたイーストヒルゴルフクラブで6月18日(木曜)に開催されます。先着40名をもって締め切りますので、希望者は事務局へ早めにお申し込みください。

42 回同期会 咲花温泉で

42 回 菊地 勲

今日は朝から篠つく大雨。恰も故福田幹事の涙雨を思わすような、はげしい雨が降りしぎった。

九月十九日、午後一時、新潟駅前のマルタケビル前に集合。マイクロバスで先ず村松町滝谷の慈光寺へ。

慈光寺は曹洞宗の禅寺で俗塵を離れた場所であり、近年県内企業が社員教育の道場として、また、外人さんが、日本の座禅を経験するために大いに利用されている。

ついで、高橋源七氏所有の矢塚苑を見学。

この頃からさしもの豪雨も小止みになってきた。庭園は約五百坪、昭和十六年に全国各地より銘石を集めて作られたのだそう。

石と水と松の翠がよりよく調和し、立派な庭園であった。大野写真技師に記念撮影をお願いした後、茶室でお茶を一服御馳走になり、咲花温泉のホテル丸松へと向かった。

今年には神奈川県より五年振



りに片山彦三君、横浜よりは常連の鳥羽正隆君が参加、新潟勢を加えて十二名の出席は一寸淋しい。ホテル丸松は鳥羽君の懇意にしているところで、連絡、交渉には大変お世話になった。故福田君は古今東西の珍しい金属製、陶土製の鈴を沢山集めていたが、遺族のご厚意で、国内各地の陶土製の鈴を彼の形見分けとして、お膳につけて皆に配った。事務局より今年はまだ一人の訃報にも接していないのは喜ばしい限りである、また明年の創立百周年記念の募金は、四十六期までの中で最高額

(六十六万円余)で、目標額をオーバーした旨を報告。

亡き友の冥福を祈り黙禱を捧げた後、鳥羽君の音頭で乾杯し懇親に入った。

新潟から呼んだ若いコンパニオン座持ちがよかったせいもある、和やかな雰囲気では進行した。

ハーモニカの演奏、カラオケ、端唄等で会は盛り上がり、最後に今井君の指揮で校歌を合唱して、一応会を締め括った。

翌日はホテル丸松自慢のひょうたん園を見学。

阿賀野川ライン舟下りは、前日の豪雨で川水が増水し、

濁流岩を咬み、多少不気味ではあったが、雨もやみ、雨上がりの阿賀の自然美を鑑賞することができた。

ホテルで昼食をとり、マイクロバスで一路新潟へ、新潟駅でお互いの健康を祝し、再会を期して解散した。

出席者、写真後列左より
有田賢一、羽田軍次、菊地勲、豊岡憲夫、神林駒年、今井包和
中列 高山雄次郎、大野
総一郎
前列 鳥羽正隆、薄田開元、岡嘉一、(片山彦三遅参) 於矢塚苑

卒業五十周年記念 四十八同期会記

48 回 小林 亥一

玲瓏の空の下、白鳥の湖・瓢湖を左手に見ながら、青陵健児四十八期生達は、迎えるバスの中、こころ弾む思いで、五頭山麓の温泉郷・村杉へ向かっていた。

「えやあ！鴨がえっばえ来てんねっか。」

「白鳥もえるっ、えるっ。」

「えかったね。こんげんよ

う晴れて。」

こんな会話が交わされていた車内には、半世紀前のような空気が漂っていた。

卒業五十周年記念同期会会場・長生館の大広間には、新潟市から武田慎三郎先生、淡路島から仲野正之先生が見え

た。十一月九日の夕刻。



今回の司会は戸川嘉代一君。まず五十嵐皓太君の簡明な開会の辞から始まった。ついで幹事長大橋明自君は、会員の消息について詳しい説明をし、卒業五十周年記念事業の経過報告を行い、校庭に記念樹を植えた際の写真を披露した。

戸川君は、熱狂的愛校心を抱く東京地区幹事小池清泰君に、在京同期生の近況報告を求めた。小池君、縷々説明。

次には、この会の極めて重要な儀式・物故された恩師、諸兄追福祈念の黙禱が捧げられた。

淡路島から遠路おいでくださった仲野先生は、感極まった様子で手厚い謝辞を述べられた。

今回は、例えば、仙台の山口素夫君、明石の吉川三吉君、盛岡からの川村一夫君のように、はるか遠い所から参会の友があり、最も遠い明石の吉川君に、乾杯の音頭を取ってもらい、酒宴となった。

一座は賑わい、久闊を叙する人、恩師のお側へ向う面々、方々で笑声起り、歓談しきり、文字通り霽然とした空気に包まれた。山口愛正君の軽妙な手品に、一同顔を凝はせた後、堀新造、小島正弘両君

の初参会の所感が述べられた。

宴はいよいよたはなわ 恒例の校歌と応援歌の朗唱が始まる。幹事の指名で、阿部慶二君と小林亥一が音頭をとる。阿部君は、まず意気高揚のため「つわものら」を高唱した。足を開き応援の姿勢をとった諸兄は、半世紀前の青陵健児だ。その歌声は夜のしじまを破ってあたりにとよもす。茨城寛君に音頭の応援に加わってもらふ。次から次へと応援歌はつづく。「ただに血を盛る壘ならば」、「ますらをのたばさむ征矢の」等々、歌いに歌った。つづいて校歌斉唱となる。小林は一言、「玲瓏の天仰ぐ時」で始まる校歌を礼讃して、歌い出す。諸兄、朗々と誇らかに唱和。

銘々の座に戻ってからも興奮さめやらず。談笑がつづいていたが、夜も更けるまま、幹事大谷一男君が閉会の辞を述べた。このたびの盛会をよろこび、感謝をこめて。

翌二十日も快晴。一堂で朝食後、武田、仲野両先生をお送りしてから解散した。再会を期して握手を交わしながら、卒業五十周年記念の会が、紅葉に彩られた温泉郷で催されたことを、有難く思いうれしく感じたのは、私だけではないだろう。その一つを挙げれば、会の始まるまでの何時間か、広い湯舟に寛いで諸友と交歓が持たれ、あるいは清閑な庭の紅葉を賞しながら歓談もあつた。幹事諸兄の並々ならぬお骨折りに対して深く感謝したい。

終わりに、幹事長大橋明自君から、記念写真と共に送って頂いた挨拶文の一部を引用させていたたく。

卒業五十周年 記念植樹の記

新中四十八期生は昭和十六年に卒業して今年で丁度五十年が経過した。この意義ある年の同期会を盛大に開催すると共に、お世話になった母校に記念の植樹をしよう、という発案が期せずして幹事会で決り、瀧澤校長先生のご快諾を得て、平成三年十月二十八日植樹式を行うことになった。記念樹は「ハナミズキ」と決定。当日幹事一同母校に集合。雨も上り秋晴れの絶好の植樹日和となる。幸先よし。参加者は代表幹事大橋明自、以下大谷一男、近藤源資、佐々木常、戸川喜代一、五十嵐皓太の六名。

学校側は瀧澤校長以下職員六名。造園業(有)高重園の職人三名がトラックに「ハナミズキ」を載せて到着。早速手際よく植込み作業に入り、丈約四米の「ハナミズキ」の若木は、正面玄関左手の庭にすくと立ち上った。その脇に白地に黒く「卒業五十周年記念樹」と鮮やかに書かれた標示杭が打ち込まれる。大橋



代表幹事から瀧澤校長に対し目録が手渡され、参加者全員が心を込めて土を掛け、拍手の中に記念植樹のセレモニーは終わった。来年の春にはこの「ハナミズキ」は白い花をいくつ付けてくれるだろうか。母校の今後の発展と共に、我々のこの記念樹が年毎に根を張り、末永く力強くすくすくと育ってくれることを祈りたい。(五十嵐皓太記)

第59期 卒業40周年 記念同期会開催

第59期は昭和20年新中一年生として終戦を迎えた。腹の減った学年で、教室を留守にする専門の弁当泥棒まで出沒するという有様であった。が、同時に旧制中学校から新制高校に移行して、六年間同じ校舎で学び、ほとんど全員がクラスメイトになったという得難い経験をした学年でもある。また、在学中にほとんどのクラブが復活し、レスリング全国大会準優勝をはじめラグビー北信越ブロック同点優勝、野球県大会優勝・バスケット県大会準優勝等、嚇々たる成績をあげた。

この学年の卒業40年・59期59歳の集いが昨年11月9日ホテル新潟で盛大に催された。



伝的要素にあり、とくに成人病では医師の関与できる範囲は残念ながらくわすかであることをデータをあげて懇切に説かれた。

医師としての本音の警告は、定年を目前にして 平均余命20・7年を残し、やがて老年期に達しようとする同期生には身にしみて有難く、時宜を得たすばらしい講演であった。

懇親会では新潟幹事・東京幹事・恩師のご挨拶に引き続き、伊佐同期会幹事から新潟高校創立百周年記念の募金の現状が報告され、59期が目下同窓各期の中で一位である。なお、一層のご協力を賜りたい旨の「激」がとばされ、万雷の拍手が沸いた。

二次会にもほとんど全員が参加し、40年ぶりの歳月へのあたりも忘れて高校時代にもどりと和気あいあい、すばらしい一時を過ごすことができた。

12月17日現在確認したところでは、59期の募金額は百三十九万五千円に達し、六年間お世話になったのだから、是非割当て目標の二倍をという同期の念願がまさに達成されようとしている。(広野 記)

三九会の例会 きりん山温泉古澤屋へ

39回 福山 健

十月三十日(水) 午前十二時 新潟駅前東急イン玄関前に次々と旧友がいろいろの服装で集ってくる。ピンクのスポーツシャツの関根君、軽い上着にすかっときめた池田君、水色の背広の涌井君等々…やがて廻って来た古沢屋のマイクロバスに一行十三名乗込む。

幸いに日和はよく晴れている。発車オーライ! 今日はい咲花温泉ではなく上流のきりん山温泉に、変更してみた次第。津川の殿サマ、佐藤平八君に手配をたのみ古沢屋に宴を開くことにした。やがてワ



は酒飲みの天国。酒もいろいろあるが歳を取るとやはり日本酒が一番無理がなくて良いようだ。まだ紅葉には少し早かったようだが名峰きりん山の裏手に廻り古沢屋に着く。

阿賀本流の大きな眺めの見える浴場に一浴して座敷の席に就く。

お互いに八十才に近づいてきたが、こうして顔を合わせ盃を交すことの出来るのは何よりの幸福である。酒が美味しくていただけるのは、健康体であるからだ。諸兄の健祥を希ふ次第。本日の面々次ぎの通り

関根 進、中村 健、涌井 一郎、小林清市郎、五十嵐

私たち花の69期生 卒業してから30年 越後湯沢へ大集合

幹廻り十六メートルはさすがに巨大である。昭和二十年代、初めてお目にかかった時は僕もまだ三十才代の元気の旺んな時、想えば老いこんだものだ。「將軍杉」はさっぱりしたものだ。

相変わらずの青年杉である。津川町に入り佐藤君の下越酒造社に車を廻して一同下車し現場で佐藤君の説明を聴き銘酒『麒麟』を試飲した。日本

は酒飲みの天国。酒もいろいろあるが歳を取るとやはり日本酒が一番無理がなくて良いようだ。まだ紅葉には少し早かったようだが名峰きりん山の裏手に廻り古沢屋に着く。

健治、山下八郎、池田藤三、石高信司、高橋新一、小武内尚三、皆川竹次郎、皆川登良夫、佐藤平八、福山 健 (計十四名)

三九会の卒業六十周年記念

昭和七年三月卒の我々青山三九会員は平成四年三月で卒業六〇年となる。

左記の通り記念行事計画中、万障繰り合せて御出席を願います。(地元幹事)

記

日時 平成四年五月七日(木) 慰霊祭 (午後二時~三時) 西堀九 眞宗寺 懇親会 (午後四時~七時) 行形亭

ときは秋、天高くすばらしい天候に恵まれ、9月28日(土)、69期生の面々は、卒業30周年を記念して、全国津々浦々から、ところは湯沢へとルンルン気分です。参するはずだったのに…。

今年の異常気象と伝説が重なるゴルフ大会。関東方面から

の集まりは順調だったのに、地元県内では、JRは止まりし、関越道は閉鎖されるし、開催が危ぶまれたが、皆さん好きなんですネ。ゴルフが。スタート時間には間に合わなかったものの、宮沢賢治の詩ではアリーマセンが、なんとか辿り着いた順番でコースへと飛び出し、メダク日没まではは無事終了と相成りました。



夜の部は、恩師(渡辺勉、横山貞雄、志賀哲夫) 3先生を囲んで、雪国の宿「高半」の大広間での大宴会。温泉に浸かり、おもしろいおもしろい寛いだ後、集まった約60名は、写真の如く、とてもオナイ歳の集団とは思えません。

ただ単に歳だけとった若作り、いつまでも忘れたくない乙女心、体形の変化を諦めてしまった腹、アメリカンを通り越しアディオスパンパス直前のこうべ(月泣いてどおなるのか?) などなど、誰が生徒か先生かまるでメダカの学校そのものです。

幹事から、創立百周年記念のための寄付のお願いなど、お堅い話の後、恩師の乾杯の音頭で、宴会の幕は切って落とされました。食へる。飲む。酔うと歌う。くどく。さわる。からむ。嫌われる。という温泉王道パターンであったかどうかはさておき「丈夫の」に始まり「玲瓏の天」「百里流れて」「えび茶の旗色に」など、お定まりの合唱がひととおり終わっても、二次会、三次会と宴は果てしなく続き、アー高半の夜は更けていくの

でありました。
翌朝、前夜の大騒ぎは、な
かったかのように、台風一過
秋晴れの下、再会を誓い合い、

67 回同期生で

堀川先生を祝う会

67 回同期会では、この度同
期堀川 楊さんが新潟日報文
化賞を受賞されたので、市内
在任の同期に呼びかけ、11 月
28 日割烹小甚でお祝い会を開
催。当時学年でクラス担任で
あった小田先生をはじめ、同
期生は急な呼びかけにもかかわらず
忙の中を喜んで参加。欠席者
から花束やお祝いのお酒が届
きました。当初堀川さんは祝
賀会をしきりに辞退されてい
たが「あなたをダシに同期が
集まれるんだから」との説得
で納得。集まった面々はまる
で我がごとのように喜びなが
らの歓談となった。医者になっ
た人が多い我がクラスでした
が、その中でも飛び切りの秀
才であった堀川さんでした。
それでも奢る事なく謙虚で控
えめな堀川さんはお礼の言葉
の中で、「この度の受賞はわ

それぞれの帰路へとつきまし
た。
(坂爪記)

て社会一般の方々を理解して
いただけ、応援して戴けるこ
とがうれしい」と述べておら
れたのが印象的でした。



総会実行委員長を終えて

67 回 石田瑞穂

三度目の総会が無事終わり
ホッとしています。前任の小
田嶋氏(64回)から、次はお前
だぞと指名されたのが平成元
年でした。少しは流れをかえ
て新味をとおもいながらも、
前例踏襲で終わってしまいま
した。それでも、年々参加者
が増え、若い人の顔も少しづ
つ見られ、さしものホテル新
潟の大広間も満員盛況となり
嬉しいことでした。実行委員、
各期幹事、又、学校教職員の
協力と奉仕に感謝しています。

百周年を迎える同窓会は会員
間の年齢差も大きくなってい
ます。それらが、年一度、何
の利害関係もなく集まりを持
ち、そこで旧交を温め、語り
合い、歌う。親、子、孫と三
代続いて同窓といううらやま
しい人達もいます。そんな楽
しい場づくりにも少しくもお役
に立てたのかなと思っていま
す。いずれにしても終わって
みれば結構楽しい三年間です。
ありがとうございます。

シャトルが結んだ 中国との友好

65 回 宮川忠和

昨年七月、OB、OG約百
七十人のわが青山バドミント
ンクラブは、創部四十周年記
念事業として、中国黒竜江省
大慶市の高校生四人を含む七
人を新潟に招待して親善交流
を行った。

母校体育館での市内高校生
を交えての交流試合や、図書
館に場所を移しての英語と漢
字の筆談による交流などで大
きな友情の花を咲かせた。

国際化時代、環日本海時代
に、次代を担う若者がバドミ
ントンを通して相互の理解を
深めたことは有意義だった。
友情の樹は永久に緑深く、
彼らが社会の一線で活躍する
二、三十年後、今回の交流が
どのように結実するか楽しみ
である。OBにとっても国際
化の最も重要な「相手を知る」
ということを学んだ。この事
業の実現までには、種々の困
難や変更やらがあつたが、そ
のハブニングにも柔軟に対処
したのは、わがクラブの豊富
な人材と人脈があげられるし、



黒竜江省バドミントンチーム歓迎レセプション
新潟高等学校バドミントン部創立40周年記念

後輩の活躍

(平成三年九月以降)

○ラクビー部
全国大会県予選準優勝

○男子バスケットボール部
全国選抜優勝大会県予選三
位

○柔道部 BSN柔道大会
男子軽量級 山口知愛三位

○剣道部 BSN剣道大会
男子団体三位

○空手部 全国選抜大会県予
選 女子団体型二位 北信越
大会出場、女子団体組手三
位、個人型 近真美子二位

○フェンシング部 全国選抜
大会県予選 男子団体 一位、
女子団体三位

○ボート部 全国選抜大会県
予選 シングルスカル一位
平岩亮、ダブルスカル一

位 長谷川、和賀組 全国選
抜大会中部予選 シングル
スカル 平岩 亮決勝進出

○軽音楽部 県吹奏学コンク
ー ル金賞、関東吹奏楽コンク
ー ル銅賞、県アンサンブルコ
ンテスト フルーツ三重奏

銀賞、クラリネット四重奏
銀賞

○生物部 第35回新潟県学生
科学賞優秀賞受賞対象、モ
リアオガエルの生態研究

〈マーキング法に皮膚移植
は可能か〉生物部カエル
班(佐々木、皆川、笠井)

特集 マスコミで活躍する女子卒業生

今回は、テレビやラジオで活躍している本校の3人の方々(YGと
いうべきでしょうが)に執筆をお願いいたしました。華やかな職業と思
われている中で、実は大変な神経を使い苦勞しながら、ひたむきに放送
の真髄を追い求めておられます。皆さんの暖かい応援をお願いします。

テレビ局5年生

91回 味方 恵子
(NHKアナウンサー)



他人の行けない場所に行き、他人の見られないものを見たい。そして多くの人に出会いたい。ただこれだけの単純な動機でマスコミの仕事に就いて、早くも5年目に入りました。新人時代を過ごした仙台から東京に転勤し、現在はテレビ、ラジオ両方で様々な番組を担当していますが、毎日の仕事は、私の就職動機を十分満たしてくれるのだと感じています。

例えばこの4年間に、出張

農村や漁村のいわゆる田舎に

取材に行った時、そこで暮らす人々の表情の豊かさに触れたことです。カメラとマイクを持ち込んですぐにもインタビューしようとする我々に、「まずお茶っこさ、飲め」と自家製の漬物を山盛りにしてすすめてくれる、おじいちゃんやおばあちゃん。(これを食べないとちゃんと話をしてもらえないのです) 過疎と呼ばれる場所で、何も無いけど幸せだと語る言葉にあふれる自信。太陽とともに起き、土地を耕し魚を捕り、子供を生まみ育て、老いていく。ごく当たり前の暮らしを堂々としていくことの素晴らしさを、取材を通して知ることができたのは、私にとって大きな収穫でした。そして大げさに言うなら、人生に対する価値観が変わる経験だったとも思っています。

出会った人々も数え切れませんが、特に印象深いのは、

テレビの仕事は大変ですが、

毎回毎回新しい発見があってとても面白く、かつやりがいがあります。女性としての視点が、仕事への興味は尽きそうにありません。

レポーターとして今思うこと

94回 伊藤 聡子
(テレビレポーター)



高校時代、授業中に発言することさえままならなかった私が、ブラウン管を通して全国の人に話すような仕事に携わっているのですから、人生は本当に不思議なものだと思います。

大卒時代から、一週間のニュースをまとめて伝える『サンデーモーニング』のレポーターを始めて二年。私自身色々な意味で変わりました。穴があったら入りたくないような失敗を重ねたお陰でかなり度胸がつけましたし、好奇心も強くなっ

たと思います。しかし一番大きいのは、番組上、私は政局を担当す

ることが多いのですが、街へ出てインタビューしてみると「政治は難しく、自分とは関係ないもの」とか「不満はあっても、しょうがない」と思っている方が非常に多いことに気が付きます。考えてみれば二年前の私もそうだったので、東欧の民主化がそうであったように、一人一人が変わり、信念を持つことが国を、ひいては世界を変える原動力になることを思った時、伝える側の責任として「世の中で起きていることは決してあなたとは無関係ではないんですよ。」という姿勢がとても必要だということをつくづく感じます。そのためには、難しいニュースも視聴者の立場に立って、タバコ屋のおばちゃんでもわかるようにかみ砕いて伝える努力をしなければいけないと思いますし、また様々な事件も、つき離れた目で見るとは違って、そうならざるをえなかった背景から、更に「自分」に照らして考えられるような、そんな伝え方ができるようならなければ、

と思っています。

本番前の慌ただしさ

94回 松井 みどり
(フジテレビアナウンサー)



「以上、今日のスポーツでした。」

土、日の「スーパータイム」のスポーツコーナーを担当して九ヶ月ほどになるが、この言葉でコーナーが終わると、いつも慌ただしかったその日のことを思い返す。

十月二十日、土曜日。この週末は大きなイベントが二つあった。プロ野球日本シリーズとF1鈴鹿グランプリ。私は日本シリーズの取材で西武球場へ行くことになった。

今日の項目を確認してからアナウンス部に戻る。パソコン通信からF1のデータを落とし、オンエアで使えるようなコメントをチェック。

午後五時四十五分。ようやく女子ゴルフだけ読み合わせができるようになる。絵を見ながら原稿を読み、合わない場合は原稿を切ったりのばしりして調節する。

午後五時五十五分。野球の読み合わせ、男子ゴルフの絵は六時から送られてくることになった。

遠くでスーパータイムのオープニングの曲が聞こえる。スポーツは六時十三分から。男子ゴルフの原稿が絵と全く合わないことがわかり、デスクがぼびりりと原稿を切っていく。コピーすると、もう読み合わせの時間がない。大きな声で原稿を読みながら階段を降りる。

午後六時十分、第七スタジオに到着。原稿の順番をそろえていると、もう九十秒のC

Mにはいつている。「スタジオ十秒前！」

フロアディレクターが叫ぶ。八、七、六、五、；さーて、今日も行きますか！

もうこんな夕タバタにもすっかり慣れてしまった。人間の

26 第四回国体横浜大会へ

県大会から数日後にトレーニングは再開された。国体の県選考である。夏休みに入ってしまったので下宿に居ることができず、私は大島久先輩(54回)の自宅に寄留させてもらった。水道町元交番の近くで海側の列に並ぶ洋風高級住宅の一つであった。私は、その出窓のある室に寝起きし御母堂のつくられた食事をいただいた。育ち盛りの競泳選手のカキのエサ作りはたいへんであったこと今も思う。

予選会は、もう夏休みも終りに近い新潟商業高校のプールで行なわれた。北国の新潟県では、水泳の場合はもうオフに近い。

ハイティーン水泳新中・新高 60回 平田 大六

適応能力とは恐ろしいものだ。しかし落ち着かないしゃべりと堂々としたトチリは相変わらず。ドタバタをドタバタに見せないのがアナウンサーだと言われたが、うーん、先はまだまだ遠そうだ。

今、彼も私も登山にむいてしま、時々ま顔を合せることがあるが、その目に未だ無念さが残っているように感ずる。さて、大黒善弥監督(50回)は、補欠でも私の国体出場のことを喜んでくれた。横浜などどうでもよい、来年のためになんだ、と云われ喜々として私をシゴきはじめた。

横浜国体へ出発の日、夜行列車に乗る新潟県水泳選手団は、新潟駅ではなやかな雰囲気の中だった。大黒監督は総監督であった。母校の水泳部員も全員見送りにきてくれた。私はと云えば、県外へは、母の実家である山形県小国町しか行ったことがない。母が修繕してくれた亡兄のシモフリの学生服を着て、旅行カバ

村田さんはこのレース後、競泳から足を洗われたという。

青山同窓会収支決算書・収支予算書

科目	平成2年度決算額		平成3年度予算額	
	収入	支出	収入	支出
繰越金	628,614		1,242,000	
入会金	1,301,600		1,254,000	
会費	3,928,000		3,500,000	
雑収入	50,941		10,000	
合計	5,909,155		6,006,000	
人件費	1,982,360		1,100,000	
通信費	595,621		720,000	
印刷費	98,622		150,000	
慶弔費	74,207		80,000	
会報印刷費	336,810		500,000	
会議費	307,970		400,000	
卒業生記念品	214,200		230,000	
青陵祭補助	100,000		100,000	
通信制補助	248,500		250,000	
退職積立金	100,000		100,000	
諸費	9,607		50,000	
予備費	598,400		2,326,000	
合計	4,666,297		6,006,000	

収支差引残高 1,242,858 次年度繰越
平成3年5月7日
上記の通り相違ないことを確認致します。

編集後記

◇新年明けましておめでとうございます。いよいよ母校も百歳。一世紀の伝統の重みを感じつつ、準備作業も順調。同窓の皆さんの縦と横とのスクラム応援、それに支えられ事務局も全開。
◇卒業30周年、40周年、50周年記念同期会がそろい踏み。若き日々へタイムスリップ。
◇引込み思案で定評のある越後女性。その枠から出て、マスメディアの最前線で奮闘する若い卒業生の潑刺とした文に清涼感が漂う。二読を。
◇悲しくも大切な方々が他界された。塩崎元校長先生、岩野先生、関口先生、片山先生、五十嵐一氏。人のなきあとばかり悲しきはなし。合掌。
◇司法試験の合格体験記。勝利の美酒も束の間、新たなスタート台に。近藤君の前途に幸あれ。
◇新聞に負けじと活字を大きくしました。これで虫メガネ要らなくなれば良いのですが。
◇原稿を寄せて頂きありがとうございます。今後も投稿大歓迎。紙面作りにも協力を。諸兄諸氏のご多幸を祈ります。(柘倉記)

画人笠原軼と その父漁村 (二十)

60回 小林智明

卒業制作

夏休みに帰省した軼は、七月の末に父祖の地である佐渡に渡り、相川の時岡医院に止宿して約一ヶ月絵の制作にふけた。「愈佐渡へ上陸して表記の処へ当分居住して居る。奇岩怪石の海景に毎日筆をとっている。暑い暑いこと甚だしい。君、モデルは見付けたかい、願はくば愚図々に終わらん様に。久米の大将の旅行とはどの方面か、宛もないから返信はしない、解たら知らせくれ玉へ。佐渡はよいところだ、来年は暫らく画堂を仮設したいと思つて居る。」と、また金川の安藤東一郎に絵ハガキで書き送っている。久米の大将と記されているのは、美術学校同級の久米福衛のことであろう。

そして八月の末には、「とうとう佐渡も切り上げ時が来た。五十号と廿五号二枚が出来かかった。炎熱の沙上につつ立つこと一ヶ月にして、随分苦しかったが代りに面白いこともあった。九月は上京する積りにや、僕は九月下旬まで滞郷する予定だ、後は帰郷の上で、勿々」と安藤に宛てて絵ハガキを出している。

佐渡を切り上げて新潟の家に帰った軼は、そこで偶然に大変な事に遭遇した筈である。即ち、この年二回目の新潟大火である。明治四十一年という年は新潟は火事の当り年で、三月八日に一回目の大火事があった。古町八番町の芸妓屋から発した火は礎町から大川に向かって走り、千二百余戸を焼失して方代橋まで焼き落としてしまった。たまたま火事の時橋を渡っていた人が、前方の橋板に火がついて燃え出したので、引返そうとしたら後方の橋板にもまた火がついて、進むことも退くこともならず、橋上

に一夜を明かしたなどという奇談も残った火事である。

二回目が即ちその九月四日の大火で、午前一時頃に古町四番町から出火し、今度は山の手の旭町方面に火が走り、諸官署や住宅街をなめ盡して二千百余戸が灰燼に帰した。師範学校も焼け、焼け出された師範学校生徒の仮校舎に、中学は寄宿舎の一部と講堂を提供して急場を助けた。秋神道人の故家、古町の会津屋もこの火事で焼け、以後没落してしまった。二度の大火で当時の新潟は荒涼たる有様で見る影もなかったという。

漁村、軼親子の学校町の家は幸に罹災を免れたが、新中の生徒の中にも罹災した者少なからず、九月十日の漁村先生の寄宿舎直日誌には、
一、明日より始業に付、本日をして開舎す。
一、居宅焼失の為、新に入舎せし者八名、再入室者名。
一、電燈は本夕より復旧。……
と見え、火災後の様子が生々しく記されている。

火事の余燼もさめやらぬ九月の末頃、軼は関西旅行に出かけた。奈良、斑鳩と八朗即先輩の吟詠の跡も訪ねたらしい。十月二日、西京の法輪寺の塔を画いた絵ハガキを、安藤東一郎の下宿先である谷中三崎町の立善寺に宛て、「愈々明日帰京久しぶりで会飲を楽まむ。」と書き送っている。

美術学校時代の楽しい思い出として、後年になって新聞紙上にも発表した記事に次のようなものがある。そして同時にそれは、木橋の頃の方代橋を懐かしんだ文章でもある。「何をくよくよ川端柳、水の流れを見て暮す、チャカホイ……この頃は東京美術学校の生徒だった頃、伊豆方面へ遠足に行った時一級下の岡本一平、池部鈞、近藤浩一路、藤田嗣治等々の面々が、道中ふざけ通して歌ったもので、歌詞も節も誰の創作かわからず、即興的に新しい文句も次々に歌われた。時々方代橋の上を通ることに、この歌が思い出されるのは、あの橋下のバラック住



方代橋下 笠原軼 今の方代橋が陸橋となり、上流が乾上がったからそこに

まいの中に、十坪ばかりの蕭洒な花壇が造ってあるのは、どういふ人の住家か、あそこでああして四季折々の水の流れを見て暮らすのは、正に詩味満溢、羨ましい生活で市中にこころ程風流なところはないうる。あそこに並ぶ堀立小屋と、初夏の風に揺ぐ真珠と水に漂う浮藻を、橋の欄干に倚つて眺めると、そこだけは全く昔のままの木橋時代に還つたような錯覚をすら催すのである。中学生の頃ボートを漕ぎ疲れて、あの橋の下にトモズナをつなぎ、船底に横わって昼寝の快いひと時を味い、陸へ上がって、一銭か五厘かの水水に渴をいやしたのもつい昨日のような気もするが、何時の間にか五十年の歲月が流れて終わった。今から更に十年の後に閨屋分水が実現

は是非美しい水の公園を造ってほしい。北日本の大都市と自称する新潟に公園らしい公園のないのはいかんと思う。」と記している。これは昭和二十九年、尾龍山人笠原軼が亡くなる一年前に「新潟日報」紙上に記した文である。

冬休みにまた帰省した。そして卒業制作の自画像にも取り組むのだが仲々はかどらぬ。卒業の年である明治四十二年三月六日、立善寺の安藤東一郎に次のようなあわたたしい文面の絵ハガキを書き送っている。「期日の五日になったのにまだ絵が乾かないで、半乾きにて仕方なく届けるからどうか宜しく頼む。自画像の方は余りに軽んじ過ぎた傾きがある。之れも例の義務的製作の不快がなしたのだ。もう之れが滞郷最後の消息と思つてくれ玉へ、

十日迄にはききと出発する。久米からも自画像の方も間に合わぬといってきた。俺の絵もし絵具の剥落した処でもあったら、あまりひどい点は一寸筆しといってくれ玉へ。色々君に御世話にばかりなつてまなかつた。勿々」と見えるが、現在東京芸大に残っているその自画像は、剥落どころか油絵具の色も生々しいくらいに新鮮な色を保って保存されている。

自画像は、東京美術学校西洋画科の名物とも言われた卒業制作で、明治三十一年の第二回卒業生から始まり、途中一時中断はあったが、ほぼ一世紀にわたり二千点を越えるコレクションになっているという。

先年昭和六十二年に、東京芸術大学(旧東京美術学校)創立百周年記念展が催され、そのコレクションの中から五百余点が出展されたのを、日本橋の三越会場で観ることができたが、笠原軼の自画像が、同級の金山平三、加藤静児、一級下の安宅安五郎、藤田嗣治、池部鈞、岡本一平らの自画像と並んで展示されてあったのは偉観で、しばらく動けずに見られてしまった。また新潟中学校出身者の出品としては笠原軼ともう一人、中野忠正(五十五回生)先輩の自画像が展示されていた。

東京芸術大学創立一〇〇周年記念展「油画・工芸」には、自画像のコレクションについて、「自画像買上げは明治三二年の第二回卒業生からである。その後数年は選択買上であるが、三三年以降は全員自画像が残されるようになり、この制度は一時的中断はあるものの現在まで続いている。また一時、卒業制作として自画像だけが提出された年が数年(明治三十七・四一年)あり、四二年に再び自画像とともに他の作品が出されるようになる(一六人中七人)。四三年からは通常の作品と自画像の両方を提出するに至った。(村田哲朗)」と記されている。四十二年卒業の軼は、その十六人中の七人に入るのであるうか、卒業制作として自画像の他に「老坑夫」という作品も提出した。(つづく)

平成三年度青山同窓会会費納入者名簿

(4月より12月20日まで納入済のもの)

未納の方は3月までに納入下さるようお願い致します。

1口1,000円できるだけ2口以上でお願いします。

郵便振替口座 新潟5-4455 青山同窓会
第四銀行学校町支店口座 0275210 青山同窓会

Table listing members and their contributions, organized by amount (e.g., 18回, 21回, 26回, etc.) and including names and addresses.

